

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立桑名北高等学校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|-----------------------------|---|
| (1) 目指す学校像 | 生徒と共に創る教育活動をととして、地域に信頼される北高 | |
| (2) | 育みたい生徒像 | ① 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 ② 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ③ 本校で育成すべき資質・能力である「7つの力」(以下)を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力 |
| | ありたい教職員像 | ① 「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員 ② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p>① 生徒 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身につけていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。</p> <p>② 保護者(各家庭、PTA) 安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。</p> | |
| (2) 連携する相手と連携するうえででの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| | ① 保護者 ○ 安全・安心な学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校 | ① 保護者 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション |
| | ② 地域住民(自治会) ○ 地域の青少年の模範となる生徒 ○ ボランティア活動、防災等での地域連携 | ② 地域住民(自治会) ○ 学校教育活動への支援と理解 |
| | ③ 中学校 ○ 学力・体力の向上、部活動の充実 ○ 進路の保障 ○ 多様な生徒への対応 | ③ 中学校 ○ 緊密な中高の連携と相互理解 ○ 本校の特色や取組の中学生への紹介 |
| | ④ 事業所、NPO ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成 | ④ 事業所、NPO ○ キャリア教育充実のための連携強化(例:インターンシップ) ○ 求人数の増加 |
| (3) 前年度の学校関係者評価など | <p>【学力の定着と向上】 ・基礎力診断テストの表彰の仕組みなど、生徒の学習意欲を高めるものとして引き続き継続されたい。 ・進学実績の成果があったカレッジクラスについて低学年時からのモチベーション維持を工夫することが課題である。</p> <p>【キャリア教育の推進】 ・探究活動で取り組んでいる SDGsについては、企業や異校種においても喫緊の課題となっている重要なテーマであり、学校と地域、事業所と連携した SDGsを核にした取組は非常に素晴らしく、今後も継続して取り組まれたい。 ・小・中学校におけるキャリア教育の取組が高校へと引き継がれる枠組みができたので、今後の異校種連携をいかに深めていくかが課題である。</p> <p>【ICT教育の展開】 ・Google Classroom を活用した ICT 関連の取組を生徒の ICT 環境を踏まえてさらに発展させて取り組まれたい。</p> <p>【安全・安心の学校づくり】 ・いじめ認知の件数について、軽微なものでも積極的に認知して解決していこうという姿勢を継続されたい。</p> | |

| | | |
|-----------|-------|--|
| | | <p>・登下校時及び校外活動時において地域住民との接点が多いため、校内だけではなく、校外活動における生徒の指導にも引き続き尽力されたい。</p> <p>【働き方改革の推進】</p> <p>・新たに導入された SSS(スクール・サポート・スタッフ)に加えて「学校ボランティア」などの仕組みも検討し、教職員の働き方改革をさらに進めていただきたい。</p> |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <p>① 【学力の定着と向上】</p> <p>・朝の学習の時間や基礎学力診断テストを通して、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。</p> <p>② 【キャリア教育の推進】</p> <p>・3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。</p> <p>③ 【生活習慣の確立】</p> <p>・朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、より時間・期日を守ることの指導を徹底していく必要がある。</p> <p>④ 【安全・安心の学校づくり】</p> <p>・日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、新型コロナウイルス感染症の予防対策や自転車の安全運転指導等、安心して過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。</p> |
| | 学校運営等 | <p>① 【円滑で戦略的な組織運営】</p> <p>・企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。</p> <p>② 【信頼の確保と指導力の向上】</p> <p>・信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>③ 【開かれた学校づくりの推進】</p> <p>・学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を、学校運営の改善につなげることができたので、これを継続していく。</p> <p>④ 【働き方改革の実効性の向上】</p> <p>・時間外勤務時間は大きく縮減することができたが、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選により、一層、働き方改革を進めていく必要がある。</p> |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|--|
| 教育活動 | <p>① 【学力の定着と向上】</p> <p>・「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成。</p> <p>② 【キャリア教育の推進】</p> <p>・好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。</p> <p>③ 【生活習慣の確立】</p> <p>・丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。</p> <p>④ 【安全・安心の学校づくり】</p> <p>・安全教育の推進と新型コロナウイルス感染症予防対策、危機管理体制の強化。</p> |
| 学校運営等 | <p>① 【円滑で戦略的な組織運営】</p> <p>・必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、新教育課程への準備の加速。</p> <p>② 【信頼の確保と指導力の向上】</p> <p>・日々の研鑽や研修を通じたコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組。</p> <p>③ 【開かれた学校づくりの推進】</p> <p>・学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。</p> <p>④ 【働き方改革の実効性の向上】</p> <p>・計画的な業務の進捗管理と業務の精選の徹底。</p> |

4 本年度の行動計画と評価

略称に
ついて

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。…【活標】と略します。
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果などを指標にします。…【成標】と略します。
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組
 【その他の略表記について】本校の総合的な探究の時間を“みらい”といいます。…“みらい”と略します。

(1) 教育活動

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------------|---|---|--------|
| 重点① 学力の定着と向上 | <p>【1学年】</p> <p>①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長</p> <p>【活標】</p> <p>①基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。 ②各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。</p> <p>【成標】</p> <p>①基礎力診断テストの評価でD3の人数を20人以下、学年評価C以上。 ②学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を40名確保。</p> <p>【2学年】</p> <p>①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長</p> <p>【活標】</p> <p>①基礎力診断テストや実力診断テスト、授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。 ②各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。カレッジクラス生徒の模試受験の推奨。</p> <p>【成標】</p> <p>①基礎力診断テストの評価でD3の人数を10人以下、学年評価C以上。 ②基礎力診断テストの評価Aゾーン3名以上、Bゾーン5名以上。</p> <p>【3学年】</p> <p>基礎的・基本的な学力の定着・完成を目指す。</p> <p>【活標】</p> <p>朝学や授業を通じて、各コースに応じて進学・就職に必要な基礎・基本的な学力の定着と完成を目指し取組を行う。さらに、カレッジクラスはより発展的な学習内容に取り組み、進学に必要な学力をつける。</p> <p>【成標】</p> <p>①最後の4月の基礎力診断テストで、チャレンジクラスは評価D3の人数を15名以下・学年評価C以上、カレッジクラスはD3を0名・クラス評価C1以上で終われるようにする。(書く力、考える力、読み取る力、前に踏み出す力の育成) ②朝学の充実を図る。さらに基礎学力定着を図るために、定期的に確認テストを行い、生徒に学力の進捗状況を確認させる。(スクール・サポート・スタッフとの連携をしながら、負担感を減らす)(聴く力、書く力、考える力の育成) ③週末課題に毎週取り組む。(国数英を中心に)効果度をチェックながら、臨機応変にやり方は変更していく。(書く力、考える力、前に踏み出す力の育成)</p> | <p>【1学年】</p> <p>①D3生徒数について 第1回はD3該当が47人だった。 第2回は夏季休業後オンライン授業の期間がありD3学習会を実施できず、61人まで増えてしまった。朝学を通して基礎学力の育成を図り、一定程度成果を収めることができたが目標達成はできなかった。 ②カレッジクラス希望者が47名おり、個人面談を通じた丁寧な進路指導を行い目標を達成できた。</p> <p>【2学年】</p> <p>①第1回 D3 … 30名 学年評価 … D1 - 第2回 D3 … 37名 学年評価 … D1 - D3の数も1年次より増加 学年評価も昨年のCゾーンをキープできなかった。目標未達成。 ②第1回 Aゾーン… 2名 Bゾーン…23名 第2回 Aゾーン… 7名 Bゾーン…22名 目標は達成しているが、目標設定にミスがあった。来年度はさらにABゾーンを増やしたい。</p> <p>【3学年】</p> <p>①4月の基礎力診断テストについてはD3が38名(うち、カレッジクラスは3名)、学年評価はD1+(カレッジクラスはC2-)となり目標は達成できなかったが、3年間を通じて基礎学力についてはある一定の定着が見込めたと考える。 ②朝学については、1学期は「一般常識問題集」を購入して取り組ませて、週末の朝学の時間に1週間で行った内容の確認テストを行い、採点をして生徒に還元した。(採点にはスクール・サポート・スタッフを活用した) 2学期からは、引き続き基礎学力の定着に向けた課題と、新聞のコラムを読んで考えを書かせるワークを行った。現在どのようなことが社会で起きているのかを知ってもらうとともに、</p> | ◎ ※ |

【教務総務部】

①生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。

【活標】

授業毎にペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。

【成標】

生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答→70%以上

②わかる授業を実現する。

【活標】

ICTの活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。

【成標】

生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答→75%以上。

【進路指導部】

基礎力診断テストおよび実力診断テストを軸として、生徒の学力把握とその伸長をはかる。

①基礎学力の向上について組織的に取り組む。

【活標】

基礎力診断テストで各学年の平均値 C 段階以上。

【成標】

D3 を各学年・各回ともに 15%以下。

②学力伸長と新入試対応のための課外授業の充実。

【活標】

全学年に放課後課外を企画・実施。

【成標】

課外授業の参加者のべ 80 人以上。

《各教科の目標》

「桑北スタンダード」を活用した授業を行う。

【国語】

・多様な生徒に配慮しながらグループワーク等を取り入れ、

考えを書くことで成標に書いた『考える力』『書く力』『前に踏み出す力』と『読み取る力』を育成する目的で行った。大半の生徒はしっかりと取り組めたが、進路決定後については取組状況が悪くなり、難しいところがあった。
③週末課題については、主にカレッジクラスの英語を中心に行った。チャレンジクラスは、朝学で取り組んだ冊子を中心に朝学を充実させるため、週末課題は行わなかった。

【教務総務部】

①生徒の実態調査アンケートより

「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」の質問に対し、

「かなりそう思う」「そう思う」78%

⇒達成できた。

②同アンケートより

「あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」65.3%

⇒達成できず。

③同アンケートより

「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」92.2%

「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる！』が増えてきたと感じていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」86.5%

⇒達成できた。

【進路指導部】

基礎力診断テストについては、新型コロナウイルスによる影響が大きくあった。第2回は休校により実施日を変更し、長期休暇明けすぐに実施したため成績は第1回に比べて下降した。第3回は学級閉鎖・学年閉鎖・登校不安等の要素があり、20%程度の生徒が自宅受験となった。(成績は 2.10 現在未判明)

課外授業の企画も例年並みに設定し、のべ参加者数も成標を上回ったが、こちらも新型コロナウイルスの影響で、変更や縮小を余儀なくされたため、満足のいく内容を提供したとはいえない。

《各教科の結果》

【国語】

・密接を避けつつ、適宜協同的な学習をとりいれ、深い学びにつなげること

主体的に思考し学び合う機会を増やす。また、漢字検定の資格取得を奨励し、学力の高い生徒には発展的な問題を勧めていく。(7つの力の「考える力」「読み取る力」「書く力」に特に注力する)

【地理歴史・公民】

・生徒の考える力を育むことを目標とする。そのために、生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で1コマにつき1回取り入れて、教師主体の授業とならないよう授業の進め方に留意する。また、発想を広げたり、相手を尊重する気持ちを育むため、お互いの考えを共有し合う機会を設けたり、グループワークやペアワークを取り入れたりして、多様な考えに触れる機会を設ける。

【数学】

・ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて話す力、書く力、考える力、協働する力を養わせる。
・教員の教授内容は最低限とし、活動を中心とした授業を展開する。
・週末課題や小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。
・ICT 機器を積極的に活用した授業の組み立てができるよう、教員一人一人が研鑽を重ね、実践し、より深い学習ができることを目指す。

【理科】

・可能な限り、実物の資料やICTを使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。

【保健体育】

・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方・考え方を学ばせる。
・個々の課題に対して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。

【芸術】

・より深く考える力を身につけるため、鑑賞の授業や、助言などを工夫しながら進める。また、生徒が集中して授業に取り組めるように授業環境を改善する。

【英語】

・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。また、アクティブラーニングを通

ができたと思う。漢字検定の受検者は昨年度から半減、一昨年並の水準となった。休校等で、開催のアピールの機会が減ったか。また、希望生徒に向けて課外授業を実施し、学力向上に努めた。

【地理歴史・公民】

・全ての科目において、「Key Question」や「考えてみよう」の項目を設け、生徒自身が主体的に考える機会をつくることができた。また、感染状況に応じて、配慮を行いながら、グループワークやペアワークを実施し、多様な考えに触れる機会を設けることができた。

【数学】

・コロナウイルス感染対策の関係で密接を避けるため、協働的な学習は昨年同様控えた。そのかわりに思考力をとうような問題を設けることで、生徒それぞれが考える時間を作ることができた。単元ごとで小テストを行うことにより、学習内容の定着につながった。ICT 機器を用いて生徒が作図をしたり、資料の整理を行うことにより計算だけにとどまらず、本来の性質などを視覚的にとらえ、より深い理解につなげることができた。

【理科】

・プロジェクターなどを用いて実験の映像やアニメーションを見せることで、生徒とイメージを共有できた。また、グループワークや実験を行うことで、協力して課題に取り組む力を養うことができた。

【保健体育】

・目標を設定し、授業や指導の方法を工夫することで達成できた。また、Chromebook を活用し、見方、考え方を深めることにもつながった。
・新型コロナウイルス感染症のこともあり、グループワークやペアワークを取り入れる際は人数や人との距離感、形態に注意しながら行い、目標を達成することができた。

【芸術】

・概ね目標を達成することが出来た。授業環境は、ユニバーサルデザインを念頭において整理整頓を行った。

【英語】

・新型コロナウイルスの影響で「話す」活動や協働的な学習を控えざるを得ないことがあったが、おおむね達成できた。引き続き、4 技能を積極的に使

| | | | |
|---|---|---|-----------------|
| | <p>して協働的な学習を多く取り入れる。</p> <p>【家庭】 ・感染対策を徹底しながら、実習においてペアワークを用い、教え合う機会を持たせる。上手に教え合いができていないペアには教員が言葉がけを行う。相手の話を聞く態度やわかるように伝える努力により、協働する力を育成し、知識・技術の定着につなげる。 ・共有で使用する道具、個人の作品材料など、物の管理を徹底させる。</p> <p>【情報】 ・ICT機器を活用し、自分の考えや体験をクラス全員の前で発表することにより、自己発信能力や自己肯定感・コミュニケーション力を高める授業展開に取り組む。</p> <p>【商業】 ・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。</p> <p>【ヒューマン】(学校設定教科) ・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。 ・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。</p> | <p>うことができる生徒の育成を目指し、基礎学力の定着を図っていく。</p> <p>【家庭】 ・コロナ感染予防の観点からペアワークの機会を予定より減らしたが実施できた授業では概ね達成することができた。 ・コロナ感染予防の観点から道具の共有を極力させた。作品材料や道具の管理は概ね達成することができた。</p> <p>【情報】 ・概ね目標を達成することができた。</p> <p>【商業】 ・概ね目標を達成することができた。</p> <p>【ヒューマン】(学校設定教科) ・コロナ禍で園児との交流の回数が減った。しかし、回数が限られたからこそ、その都度、交流にこだわりをもって取り組むことができた。また、交流の気づきを明確化し、他者との共有を経て学びが深まるよう、毎交流後に振り返りシートを書き、次回までに意見を集約し、配布、共有することができた。さらに自他への理解を深めるために、園児との交流、各ワークはもちろんのこと、講師として来ていただいている臨床心理士の先生にも講義をしていただいた。</p> | |
| <p>重点② キャリア教育の推進</p> | <p>【1学年】 ①7つの力を意識したキャリア教育 ②身だしなみを整える。 【活標】 ①「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。インターンシップと探究の連動。 ②いつでも面接にいけるような身だしなみをする。 【成標】 ①1学年終了時に、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、7つの力の中から3つピックアップ。 ②女子のスカート折り曲げゼロ。頭髪染色等の指導の徹底。 【2学年】 ①7つの力を意識したキャリア教育 ②10月までに希望する具体的な学校名、企業名を挙げられるようにする。 【活標】 ①「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。「オリンピック・パラリンピック」をテーマに探究を行う。 ②3年並の進路情報を与えていく。</p> | <p>【1学年】 ①各生徒が毎時ふりかえりを行い、身についた力を実感できた。 ②スカートの折り曲げに関しては指導にはのるが、指導しないと折り曲げをする生徒が一定数いたため目標達成できなかった。 頭髪指導に関しては、生徒指導部と連携をとり丁寧な指導を行い、染色をそのままにする生徒は0だったため、目標達成できた。</p> <p>【2学年】 ①年度末実施予定 ②189人(199人中)が現時点での具体的な進路希望を表明できた。未定や迷っている者が10人おり、目標は未達成。時期も12月までずれ込んでしまった。</p> | <p>◎ ※</p> |

【成標】

①2 学年終了時に、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、7つの力の中から3つピックアップ。

②10 月時点での希望進路表明 100%。

【3 学年】

各コースに応じて必要なキャリア教育を行う。

【活標】

各コースに応じたキャリア教育を、朝学や総合的探究の時間を使って指導する。特に、今年は進路実現の年であるので、進路指導部とより連携を深め、協力して生徒たちの進路実現に必要な情報や題材を提供し、それぞれの進路意識を啓発する。

【成標】

①朝学の中で、キャリア教育について学べる教材を扱う。特に、1 学期を中心に取り組むべき内容と、進路決定後に取り組むべき内容を精査し、学年会や進路指導部と連携しながら朝学やみらい・LHRを充実させる。(書く力、聴く力、考える力、読み取る力を育成する)

②みらい(総合的な探究の時間)で学んだことを活かし、進路選択・決定をすることや、それに対する準備(履歴書の書き方や志望動機の記入方法)など、1, 2 年生で学んだワークを活用した学びと活用を目指す。(7つの力すべての育成)

③カレッジクラスを中心に、実力診断テスト等を活用した進学指導や学習指導を行う。

④進路決定率 100%を目指す。

【生徒指導部】

①挨拶が行き交う学校づくりを行う。

【活標】

「挨拶は桑北の光」という標語を用いて、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。

【成標】

生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答→90%以上。

②身だしなみ・頭髪の指導を行う。

【活標】

各学期に2回の「頭髪・服装指導」と日々の校門指導を基本とし、いつでも進学・就職試験を受けられる状態にする。

【成標】

頭髪服装の再指導人数が全体の5%以下。

【進路指導部】

総合的な探究の時間「みらい」を計画的かつ効果的に企画・運営し、生徒のキャリア形成を促しつつ進路意識の向上を図

【3 学年】

①「1. 学力の定着と向上」で書いたように、朝学については、1 学期は就職試験に向けたもの、2 学期以降は新聞のコラムを用いたもので、基礎学力の向上とともにキャリア教育を意識した内容を取り扱った。

②総合的な探究の時間(みらい)で、今年はみらいセミナーが実施できたおかげで、進路実現に向けた取り組みを充実させることができた。また、令和4年4月から成人年齢が変わることから、それに向けたキャリア教育を、みらいの時間だけでなく数学のテストにも取り入れるなど、教科横断型の取組を行うことができた。

③希望者の受験となったが、実力診断テストの結果や模擬試験の結果を用いて担任を中心に難関の進学先を目指す生徒を対象に面談等を行いながら、進学先の決定や勉強の取り組み方を指導できた。しかしながら、本年度はカレッジクラスから就職が7名、指定校推薦・AO 入試で25 名程度が受験したため、本テストを用いた進路指導が全員にできていない現状はある。今後は、生徒の状況に応じた活用方法を再考すべきだと感じている。

④学校から希望した生徒については、就職率は100%である。その他、縁故就職等の生徒は複数名いるものの、進路先の未定者は現在一般入試に挑戦している1名のみである。

【生徒指導部】

①「挨拶ができた」の回答が90.8%であり、目標を達成できた。挨拶を日常的に行う雰囲気ができている。

②各学期2回の「頭髪・服装指導」と校門指導を実施したが、再指導人数は全体の5.2%で目標であった5%以下を達成できなかった。

【進路指導部】

「みらい」の年間計画に基づき概ね実行した。休校期間による日程変更

| | | | |
|-------------------------------|--|---|----------------|
| | <p>る。新型コロナウイルス感染症対応による指導機会の減少や企画の中止にも対応し得るよう、状況に応じて弾力的に実施する。</p> <p>①年間計画に基づく効果的なキャリア教育の推進</p> <p>【活標】 中・小 PDCA サイクルを活かしたキャリア教育の実施。</p> <p>【成標】 生徒アンケートによる満足度 90%以上。 昨年度卒業生の1年以内の早期離職率 10%以下。</p> <p>②各学年との連携</p> <p>【活標】 進路指導部の「みらい」担当と学年との打ち合わせを密にする。</p> <p>【成標】 学年会議で「みらい」打ち合わせ 100%実施。 学級担任からの企画についての評価回収 100%。</p> | <p>については、より効果的な教育内容を精選して弾力的に運用した。「みらい」担当者と学年との連絡を密にして、臨機応変に対応した。</p> | |
| <p>重点③ 生活習慣の確立</p> | <p>【1学年】</p> <p>①遅刻・欠席数の減少 ②朝学の充実</p> <p>【活標】 ①遅刻生徒としっかりと対話し、その家庭と連携する。 ②朝学に朝読を取り入れ、興味・関心のあるものから表現の仕方や言葉を知る。心穏やかに授業に取り組む体制を作る。</p> <p>【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②全員が朝読の本を自分で選び持ってくる。</p> <p>【2学年】</p> <p>①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみの徹底</p> <p>【活標】 ①朝学に計画的に取り組む。遅刻生徒としっかりと対話し、その家庭と連携する。 ②服装・頭髪について予防と対応を使い分け、身だしなみを整えることの意義を伝える。</p> <p>【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②各頭髪服装指導の該当者、各クラス3名以下。</p> <p>【3学年】 当たり前前を当たり前前に行える行動・雰囲気を作り出す。</p> <p>【活標】 遅刻、欠席の数を減らし、進路に対する意識を持って安心して学校に登校できる雰囲気を作る。積極的にグループワーク等を活用し、生徒自ら主体的に授業や学校行事、進路実現に向けて活動できる雰囲気作りを行う。</p> | <p>【1学年】</p> <p>①昨年度遅刻数 3.1%だったが、本年度は 2.5%だったため目標達成できた。 ②クラスの半数以上が本を持ってきて、集中して朝読することができたが全員が持ってくるとはできなかった。</p> <p>【2学年】</p> <p>①1 学期遅刻数 318 件 (昨年 144 件) 2 学期遅刻数 363 件 (昨年 418 件) 昨年度は4・5月が休校、今年度は9月が休校だったため、単純比較はできないが、遅刻数は昨年度2学年よりも増加傾向にある。目標未達成。 ②頭髪指導で改善を求められた人数 (1～5組の合計) 4月男子… 1人(達成) 女子… 4人(達成) 6月男子… 3人(達成) 女子… 6人(達成) 9月男子… 3人(達成) 女子… 5人(達成) 10月男子… 3人(達成) 女子…16人(未達成) 1月男子… 1人(達成) 女子…12人(達成)</p> <p>【3学年】</p> <p>①新型コロナウイルスの感染状況の変動が大きく、学校生活を送る上で非常に厳しい状況ではあったが、それを除いたとしても、遅刻・欠席数ともに昨年度より悪化してしまった。特に、遅刻・欠席する生徒が固定化されてお</p> | <p>◎ ※</p> |

| | | | |
|---|--|--|-----------------|
| | <p>【成標】 ①遅刻・欠席数を昨年度比減にする。 ②人権 LHR や各授業において、積極的にグループワーク等の生徒参加型の授業を行うように各教科に声かけをしていく。(聴く力、話す力、考える力、前に踏み出す力、協働する力の育成)</p> <p>【生徒指導部】 ①全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。</p> <p>【活標】 遅刻指導(回数による段階的な指導)を遅刻数増加のはじめとする。生徒手帳へ遅刻状況を記録する。</p> <p>【成標】 全学年の遅刻者率(※)→各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率=遅刻者数/(在籍者数×授業日数)</p> <p>②アルバイト等、学校外の活動で生活習慣が乱れないように指導する。</p> <p>【活標】 アルバイト許可については経済的な理由等、やむを得ない理由がどうか、また成績不振科目がないかどうか確認して手続きを行う。無断アルバイトがないよう、周知する。</p> <p>【成標】 無断アルバイト件数5件以下。</p> <p>【保健部】 ①自分を守るために、良い習慣を身に付ける指導、啓発を行う。特に新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症について、予防啓発を重点的に行う。</p> <p>【活標】 全学年で朝食や睡眠、手洗いなど基本的な生活習慣の確立についての指導・啓発。</p> <p>【成標】 ・入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導→1回ずつ。 ・健康管理に対する意識啓発→健康観察表の活用。 ・保健便り、保健通信の発行→それぞれ年間10回以上、必要に応じて随時発行。 ・掲示物の作成→年間5回以上。 ・保健調査や健康診断結果による面談。 ・来室時における個人指導などの実施。</p> | <p>り、その生徒が昨年よりも増えた影響で、全体的に数値が上がったと考えられる。</p> <p>②密を避けながら、グループ学習ができる状況のときは、生徒参加型中心のものにすることができた。しかし、感染状況が悪化し、リモートで講話を聴くときには、やや集中力が欠け、身につけさせたい力が思うようにつけられないこともあった。</p> <p>【生徒指導部】 ①今年度は、遅刻手続きで生徒手帳に記入するように指導したが、生徒手帳を持っている生徒が少なかった。遅刻者率は1学期2.2%、2学期3.8%、全体3.0%で2学期は目標を達成できなかった。 ②今年度の無断アルバイトでの指導件数は6件で目標を達成することが出来なかった。</p> <p>【保健部】 学期毎に定期的に校内放送で生徒に注意喚起を呼びかけるなど意識向上に取り組んだ。</p> <p>①達成 ・感染症対策の啓発 保護者に1回実施、生徒対象に8回実施 ・健康観察表の管理 ・保健便り→10回 ・保健通信→11回 ・保健室前掲示→5回 ・個別面談・保健指導の実施</p> | |
| <p>重点④ 安全・安心の学校づくり</p> | <p>【1学年】 ①家庭との連携 ②清潔な学習環境 ③新型コロナウイルス感染症対策の徹底</p> <p>【活標】 ①少しでも気になる様子があれば家庭に連絡する。 ②学年通信の発行。 ③家庭訪問の実施及びオンラインや対面面談の実施。 ④HR 教室・トイレ・廊下の清掃を徹底する。掃除のないテスト期間等も教員が環境整備を行う。</p> <p>【成標】 ①各クラス年度当初の保護者面談10人以上。</p> | <p>【1学年】 ①保護者面談は年度当初だけでなく、担任と主任の4者面談を10人以上、複数回行い、保護者と密に連絡をとることができた。 ②学年通信第10号まで発行し、生徒の普段の学校生活等を、文章だけでなく写真等で伝えることができた。 ③教室だけでなく、廊下の清掃やロッカーの上に物を置かない、トイレの整備を徹底することができた。</p> | <p>◎ ※</p> |

- ②学年通信の発行 年間 10 回以上。
- ③毎日の清掃。

【2学年】

- ①いじめの積極的認知
- ②家庭との連携
- ③清潔な学習環境

【活標】

- ①いじめに対する教員のアンテナを高くし、いじめの芽の段階から早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。
- ②学年通信の発行。対面及びオンラインでの面談実施。
- ③HR 教室・トイレの清掃を徹底する。掃除のないテスト期間等も教員が環境整備を行う。

【成標】

- ①いじめの重大事態0件(いじめを積極的に認知する姿勢を持つ)。
- ②学年通信の発行 年間 10 回以上。
- ③毎日の清掃。

【3学年】

担任団・学年団がコミュニケーションを取り、生徒の実態把握を行う。

【活標】

生徒の雰囲気や反応をしっかりと読み取り、生徒の実態把握を行う。特に、小さな変化を見逃さず、いじめに関する事案を小さいものから発見できるように、各担任と生徒、教員間のコミュニケーションの充実を図る。

【成標】

- ①年間に 30 回以上の学年会を行う。このときに必ず、各コースの情報共有を行う。
- ②状況に応じて、積極的に生徒本人や保護者との連絡を密に取る。
- ③いじめ事案を見逃さない。生徒指導部からのアンケートだけでなく、普段の生活から細かいことでも情報共有を行う。

【教務総務部】

- ①生徒一人ひとりの心を動かす人権教育を実施する。

【活標】

全学年で人権 LHR を 2 回、人権講演会を年 1 回実施する。

【成標】

開催後の生徒アンケートで満足度 80%以上。

- ②「障害者差別解消法」の視点から教育活動を点検・改善する。

【活標】

合理的配慮が法的義務であることから、その実施状況について点検を行い、改善策を作成する。

【成標】

点検と改善検討を 1 回以上行う。

【2学年】

- ①いじめの重大事態 0 件

いじめの認知件数 14 件(2 学期末) 早期対応の成果として認知件数は 2 桁を越えたが、重大事態には至っていない。達成。

- ②学年通信は 10 号まで発行予定。各学期に 1 回は担任からの面談を実施。3 学期も実施予定。
- ③清潔な環境作りを心がけ、日々の清掃をしっかりと行った。

【3学年】

- ①本年度は 34 回の学年会を持つことができ、新たにクラスルームを通じて学年会を録画し、副担任の先生方にも共有できるよう取組を行った。

- ②③生徒が担任へ相談に来た嫌がらせに関しては、初期段階でしっかりと学年で共有し、生徒指導部とも連携を取りながら改善に向かうよう指導等を行った。指導後の再発はほとんどなかったため、重大事態になることはなかった。保護者とも連携し、早急に対策等や現状報告、保護者の要望を聞くことができた。

また、いじめアンケートを活用したいじめ(嫌がらせ)の対応も行い、大きな事案ではなかったが、学年会を通じて重大事態になる前に聞き取りや現状を確認して進めることができた。

【教務総務部】

- ①人権 LHR は以下のテーマで 2 回実施した。

第 1 回(1 学年「インターネットの人権を考えよう」/2 学年「ポッチャの体験」/3 学年「統一応募用紙について」)

第 2 回(各学年「人権講演会事前学習: 部落問題について」)

人権講演会は、丸田光昭氏に「私の生い立ちと同和問題」をテーマにオンライン配信で実施した。満足度調査は、「大変満足」と「満足」の合計が 94%だった。

- ②聴覚の弱い生徒に、補聴器の貸し出や、サポーターをつけるなどの合理的配慮を行なった。また、身体障がい者や、性的少数者が利用しやすいよ

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>【生徒指導部】</p> <p>①交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。</p> <p>【活標】 1・2 学年向けに自転車交通安全講習を実施し、交通事故防止に努める。</p> <p>【成標】 筆記試験を実施し、9 割の生徒が 80 点以上取れるようにする。</p> <p>②いじめのない生徒関係の構築を行う。</p> <p>【活標】 いじめ防止講話を実施する。いじめアンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。</p> <p>【成標】 年 3 回、いじめアンケートを実施し、活用する。</p> <p>【保健部】</p> <p>①生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。</p> <p>【活標】 1 年生：養護教諭と保健体育科の連携による性教育やデートDVについての指導。 2 年生：健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育。 3 年生：妊娠・出産についての性教育（外部講師を活用）。</p> <p>【成標】 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度→各 85%以上。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症に対する予防的措置を講じる。</p> <p>【成標】 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置、教室・廊下のドアノブ・手すり等共用部分の消毒、換気の徹底。</p> | <p>うに「みんなのトイレ」を設置した。</p> <p>【生徒指導部】</p> <p>①自転車交通安全講習をリモートで実施し、筆記試験を行った結果、80 点以上取った生徒は 87.6%だった。目標を達成することができなかった。</p> <p>②いじめアンケートは、学期毎に 3 回実施した。</p> <p>4 月にいじめ防止の講話を学年ごとに実施した。</p> <p>4 月・11 月にピンクシャツ運動を実施し、全生徒にピンクのマスクを渡し、意識の向上に努めた。</p> <p>【保健部】</p> <p>①達成 1 年：性教育を各クラスにて 9 月に実施。満足度 94%。デートDVの講話は、5 月に実施し 90%が満足の結果となり達成できた。 2 年：個別面談を実施した。 3 年：12 月実施の性教育の講話については 93%が満足の結果となっており、目標を達成できた。</p> <p>②手指消毒アルコール液・手洗い石鹸を常備するとともに、教室・廊下の机・いす、ドアノブ・手すり等共用部分の消毒、換気の呼びかけを実施した。</p> | |
|--|---|--|--|

改善課題

- ・コロナ禍において、対面の授業が減少する等の制約があったが、「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール（基礎力診断テスト）を活用するなどして、引き続き基礎学力の定着と向上に努めていく必要がある。
- ・遅刻者数や欠席者数が昨年度と比較して増加しており、コロナ禍であるとはいえ、基本的な生活習慣を確立していく必要がある。
- ・令和 4 年度入学生から 1 人 1 台の学習端末を活用して、学習活動を進めていくことになっていることから、校内運営体制、指導計画等を整えていく必要がある。

(2) 学校運営など

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------------------------------------|---|---|----|
| <p>重点① 円滑で戦略的な組織運営</p> | <p>【学校運営】 教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 ・「基礎力診断テスト」をメインにした学力定着の取組が奏功しており、また、“みらい”・LHR 等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。「コミュニケーション授業」も含めたこれら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 また、各種委員会を活性化させることで、学校の教育課題を解決していく視点でのカリキュラムマネジメントを行う。 【活標】 「管理職会議」「主任会議」「企画委員会」「ICT 委員会」「学校信頼向上委員会」等を開催し、円滑で戦略的な組織運営を図る。 【成標】 「主任会議」毎週 1 回、「企画委員会」毎月 1 回、「ICT 委員会」「学校信頼向上委員会」設置。</p> | <p>【学校運営】 「主任会議」はほぼ毎週で継続して実施し円滑な組織運営に努めた。 「企画委員会」はほぼ月 1 回実施した。 「ICT 委員会」「学校信頼向上委員会」は、必要に応じて開催することができた。</p> | |
| <p>重点② 信頼の確保と指導力の向上</p> | <p>【学校運営】 ①学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着きをみせている学校運営の中で、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。 【活標】 基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及び PDCA サイクルの構築を図る。 【成標】 管理職による授業見学の年 1 回以上の実施。 ②「学校信頼向上委員会」の主導により、信頼確保のための研修をはじめ、セルフチェックや管理職による面談等を実施するとともに、人権研修を行う。 【活標】 人権とコンプライアンスに係る研修の実施、会議、面談等でのコンプライアンスに係る声かけ。 【成標】 それぞれの研修→年 1 回の実施。 セルフチェック→年 2 回の実施。 「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組 【教務総務部】 【活標】 教員の授業力向上を目的とした授業公開・授業研究を(年 2 回、各 1 週間、一人当たり 2 回以上の授業見学)を実施する。 【成標】 ・一人当たり 2 回以上の授業見学の実施→75%以上。 ・「主体的・対話的で深い学び」に関する評価について研究を行う。</p> | <p>【学校運営】 ・人権とコンプライアンスに係る研修はそれぞれ 1 回開催できた。また、期首面談等の個人面談を通して、管理職から声掛けを行った。 ・セルフチェックについても、個人情報管理の観点、生徒対応・指導にあたっての観点についてそれぞれ 1 回実施した。 ・「信頼される学校であるための行動計画」の年間計画に基づき、計画的に取り組むことができた。</p> <p>【教務総務部】 授業力向上の取り組みに加え、休校中のオンライン授業や導入された ICT 機器の活用例など、教員どうしの自主的な実践研修も増加した。 ○2 回以上の授業見学を行った・・・89.5% ⇒達成できた。</p> | |
| <p>重点③ 開かれた学校づくりの推進</p> | <p>【学校運営】 ①家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。 【活標】 学校実態調査アンケートの実施と分析。 【成標】 9 月の職員会議で定点分析報告。 【活標】 HP、絆ネット、Google Classroom、報道機関、アプリ「私の学</p> | <p>【学校運営】 ・秋に HP の全面改修を行い、頻繁に情報発信を行うとともに、より分かりやすい発信の工夫に取り組んだ。 ・特に休校期間において、きずなネット、Google Classroom を活用した効果的な情報発信を行った。</p> | ◎ |

| | | | |
|------------------------------------|--|--|----------|
| | <p>校」を活用した効果的な情報発信。</p> <p>【成標】 必要な情報発信→100%。</p> <p>【活標】 遠足・体育祭・文化祭の前、回覧板への情報発信。(年3回)</p> <p>【成標】発信率→100%。</p> <p>②学校関係者評価、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。</p> <p>【活標】 学校関係者評価委員等から提出された改善提案を、次年度の教育活動の改善につなげる。</p> <p>【成標】 改善提案に関連する改善事例→2 件以上。</p> <p>③学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。</p> <p>【活標】 各学年・分掌の要求に基づき学校運営費を適正に配分するとともに、効率的な運用に努める。</p> <p>【成標】 教職員アンケート→満足度 80%以上。</p> <p>④快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。</p> <p>【活標】 危険箇所を中心に、学校施設・設備などの整備・点検・修繕を行うとともに、新型コロナウイルス感染症予防を徹底するなど教育環境の充実に努める。</p> <p>【成標】 教職員アンケート→満足度 80%以上。</p> | <p>・生徒会・PTA 役員会からの学校改善に係る提案について、トイレの改修、扇風機の設置など、その実現に取り組んだ。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策に対応した予算の執行が求められるなか、予算の確保や適正な配分に努めるとともに、会計規則等に基づき適正な会計事務の執行に努めた。引き続き、限られた予算のなか、適正な予算配分と会計事務に努めたい。</p> <p>学校予算の配分等についての教職員のアンケート結果では、「満足」「やや満足」が 92.5%という結果であった。</p> <p>④生徒や教職員が安心して学校生活を送れるように施設や設備の改善に努めている。特に今年度は、ICT環境整備、不要ロッカーの廃棄等の環境美化、私費会計を活用したHR教室への扇風機の設置などに取り組んだ。引き続き、限られた予算のなか、より快適な教育環境の充実に努めたい。</p> <p>・修繕工事件数 18 件 ・整備工事件数 3 件</p> <p>学校施設等の整備・点検・修繕についての教職員のアンケート結果では、「満足」「やや満足」が 94.9%という結果であった。</p> | |
| <p>重点④ 働き方改革の実効性の向上</p> | <p>【学校運営】 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。</p> <p>【活標】</p> <p>①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合。 :80%以上。</p> <p>②計画した日に休養日を設定できた部活動の割合。 :100%。</p> <p>③放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合。 :90%以上。</p> <p>④スクール・サポート・スタッフ、支援員の有効的な活用。</p> <p>【成標】 働き方改革の推進 ・時間外労働時間 ①一人あたりの月平均時間外労働:15 時間以下。</p> | <p>【学校運営】 ・総勤務時間の縮減(1 月末現在)</p> <p>① R2 年度 59%→R3 年度 63% (+4%)</p> <p>② R2 年度 100%→R3 年度 100%</p> <p>③ R2 年度 80%→R3 年度 79% (▲1%)</p> <p>④ SSS(スクールサポートスタッフ)、支援員を2人配置し、教職員の負担軽減につなげることができた。</p> <p>・時間外労働時間(1 月末時点)</p> <p>① 一人あたりの月平均時間外労働:15 時間以下 13.9H→14.5H (+0.6H)</p> | <p>※</p> |

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>②年 360 時間を超える時間外労働者数:0 人。 ③月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数:0 人。 ・休暇取得 一人あたりの年間休暇取得日数→前年度比 1 日増加。</p> | <p>②年 360 時間を超える時間外労働者数 2 人 ③月 45 時間を超える時間外労働者延べ人数 17 人 ・休暇取得 一人あたりの年間休暇取得日数 R2 年度 9.4 日→R3 年 14.1 日 (+4.7 日) 引き続き、負担軽減、業務の見直しに努めたい。</p> | |
|--|---|--|--|

改善課題

・教職員一人あたりの月平均時間外労働時間や月 45 時間を超える時間外労働者延べ人数において、目標を達成できておらず、働き方改革の継続が必要である。
 ・今年度は、入学者選抜において、昨年度のように定員割れをすることはなかったが、受検者数を確保し、中学生や地域社会にとって魅力のある学校であり続けるようにする必要がある。

5 学校関係者評価

| | |
|----------------------------|---|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <p>【授業の改善】 「主体的・対話的で深い学び」を進めていくには、「振り返り」の活動が学習内容の定着に欠かせないものである。コロナ禍においては、ペアワークやグループワーク等が実施しにくい状況であるが、工夫を凝らして、学習内容の定着や学習意欲の向上につなげてほしい。</p> <p>【ICT教育の推進】 小学校、中学校においては、1 人 1 台の学習端末を活用して、授業を行っており、既に生徒の端末の活用能力は、高くなっている。地元中学校等との連携を取り、生徒にとってより便利に、効果的に授業や学校生活において、端末を活用することができるように取り組んでほしい。</p> <p>【主権者教育の推進】 「北高カイゼンミーティング」の取組は、主権者教育の一環としても、校内の課題解決のため有効な手段の一つである。生徒が受け身の姿勢ではなく、主体的に身近な課題を考え、改善案を提案する貴重な機会であり、来年度も回数を増やすなどして継続をしてほしい。</p> <p>【基本的生活習慣の向上】 地域住民は、桑名北高生の様子をよく見ている。歩きスマホや狭い道の通行方法など、一部の生徒ではあるがマナーが気になっている。思いやりや譲り合いの気持ちを持ち、通学時のマナーが改善されるよう、生徒に粘り強く指導を継続してもらいたい。</p> <p>【学習環境の整備】 トイレが改修されたり、教室に扇風機が設置されるなどして、生徒の学習環境が整えられていることは素晴らしいことである。トイレ等校舎内をきれいに保つために、生徒に清掃の指導をするだけでなく、教職員が率先して掃除をしている姿を生徒に「見せる」ことで、生徒に環境整備の意識づけを図ってもらいたい。</p> |
|----------------------------|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|---------------------|--|
| <p>教育活動についての改善策</p> | <p>・1 人 1 台学習端末等 ICT 機器を積極的に効果的に活用した授業を計画的に実施することで、生徒の基礎学力や学習意欲の向上につなげていく。 ・外国につながるある生徒の担当者を新たに設置し、学校生活を充実させることができるよう、きめ細やかにサポートをしていく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員等、外部人材との連携を継続し、担任等をサポートするとともに、生徒が安心した学校生活を送ることができるよう努める。</p> |
| <p>学校運営についての改善策</p> | <p>・業務内容や業務分担の見直し、スクール・サポート・スタッフの活用等を継続することで、業務の平準化を目指し、時間外労働時間の縮減に努める。 ・コロナ禍の状況にもよるが、報道機関に教育活動の情報を積極的に提供することで、ホームページ以外の情報発信の手段を確保し、地域や中学生・保護者に対する広報活動を効果的に行う。</p> |